

## 美しき清流は太古の森の雫より

### 第十一話：鯉ドブ釣りの巻き（亀の子編）

六枚屏風に激突して大きく曲がった流れは、一の谷を通過する辺りで水力を緩め、この川最大の底深いプール状の大淵を形成していた。

サマーランド側の岸辺は芦が生い茂り、ホウジロやアオジの寝床になっていた。

対岸の岸辺は足元から底が見えない程の水深となっており、地元では亀の甲（子）と呼ばれ、日曜日には子供達がそれぞれの釣り方で川遊びをする風景が繰り返されていた。



「チャラ三郎」も鯉の乗っ込みの時期になると、蒸し芋の餌を持参して足を運びました。投げ込み用のリール竿を数本用意して1本、2本・・・と投げ込み大鯉の当たりを待ちます。



ポーと待っていると、竿先に付けた鈴が壊れんばかりに鳴り響きます。  
竿先は大き曲がり、竿ごと一気に川底に引き釣り込まれるような大物も出ますが、30cm  
～50cmが平均サイズです。  
時には岸边近くからも鯉の姿を見ることがあります。



11月後半になり水温が落ちると鯉の時期も終息となり、しばらく川とも遠ざかる日々が続きます。

春の光が降りそそぐ頃まで・・・・・・・・

「秋川チャラ三郎」